

令和4年3月10日実施分

令和3年度 家庭教育充実促進事業

「発達がゆっくりの子のための入学準備」

①小学校で始まる学習の基礎力を点検してみましょう

～聞く・話す・読む・書く・計算する力、人と関わる力～

講師：西岡 有香さん

(大阪医科薬科大学 LD センター 言語聴覚士 特別支援教育士 SV)



♪こんなことをお話いただきました♪

- ・発達ゆっくりの子どもにとって小学校での生活でどんなことが難しいでしょうか。それに対して家庭でどんな準備や心がけができるでしょうか。



【まず小学校での生活をイメージしてみましょう】

★学校には、子どもは相当な重さのランドセルを背負って、行かなければなりません。その前に制服を毎朝着なければならず、身支度をしなければならず、朝食を食べなければなりません。教室で授業を45分間、1日4時間から5時間、聞かなければなりません。ずっと座っていられるでしょうか。これらの動作ひとつひとつに「粗大運動」(姿勢の保持や移動運動などを代表とした運動、全身を大きく動かす運動)「巧緻性」「体幹の保持」「集中力」などいろいろな能力が必要とされます。

【説明を聞く、指示を聞く、話を聞く】

★自分の子どもがどのくらいの長さの文を聞いて理解できるか、わかっておきましょう。2語文までわかるのか、3語文まで大丈夫なのか？学校での指示は「〇〇をした人は△△しなさい」「右手をあげて左において・・・」「もし～だったら、〇〇しなさい」というように複雑です。「位置関係の理解」「語彙力」「音を聞き分ける力」「その場で聞いて覚える力」などの力があることが前提でこうした指示が理解できます。

【国語の学習】

★すべての科目の基本といえる国語。文字の読み書きについて学びますが、文字というのは読めないと書けません。文字の読み書きも大切ですが、どれくらい「ことば」を知っていて、使えるかがもっと大切です。知っている言葉の範囲が少ないと、音声入力の機能も使えないということになります。語彙力を増やしていくことが大事ですが、ものの名前だけでなく、感情や様子を表す言葉をたくさん覚えていきましょう。「いやだ」「またやりたい」「楽しい」以外でも「わくわくした」とか「どきどきした」など。語彙力を豊かにするためには保護者自身がいろいろな言葉で子どもと会話するということが大切です。「書く力」より「聞く力」「話す力」が大事で、それがで

きるようになれば「読み書き」の力も伸びます。最近では ICT 関連の技術の発展で、音声入力したものをそのまま文字化してくれることが可能になってきました。読み上げ機能がついている「デジタルブック」「デジ絵本」が図書館で貸し出ししていることもあります。文字を書くことについて言うと、なぞり書きをしても本当の力はつきません。何の力をつけるために子どもはそれをやっているのか、ということをいつも考えましょう。

★「話す力」をつけるには話したいという意欲をもつことが大事で、そのためには、自分が話したら認められた、という経験がほしいところです。子どもが人前で話すには勇気が要ります。発達がゆっくりの子が話そうとしても、周りの子どもたちは低学年の間は誤りを指摘するなど情け容赦ないかもしれません。そのような場合は、大人が入って上手に説明してあげれば周りの子どもたちの理解も深まります。

【算数の学習】

★算数を理解する段階として、数処理→数概念→計算→文章題とすすみますが、文章題が一番難しいです。時間感覚を身に付けるというのも大事で、キッチンタイマーを使って残り時間を意識できるようにするという工夫もよいでしょう。

【図工・音楽・体育】

★図工では何かを作ったり絵を描いたり、指先の巧緻性が必要な作業も多く、目と手の協応動作も必要です。幼稚園・保育園では上手に絵を描く友達の横に座って真似をするという方法も使えましたが、小学校ではそれもなかなか難しくなります。自分で実際に作品を作る、想像して描くということも必要となってきます。真似をして描くことができるのなら誰かの隣に座り「まねして描いていい」とするのもひとつです。大人は、子どもは学ぶために学校に行っているのだというところに価値観を置き、そのための環境を整えるということに重きをおきましょう。

★体育では、みんなで並ぶ、走る、ボールを投げる/受ける、鉄棒、マット、跳び箱などの活動があります。これらの活動には姿勢保持や筋緊張を保つ、協調運動、リズム感などが必要となります。発達のゆっくりした子どもの中には 5 分間くらいしか立ってられないという子どももいます。子どもの特徴を学校に伝えて無理をさせないようにしましょう。

★音楽では、合唱、合奏がはじまり、他者を意識したり、友だちといっしょにうたったり演奏する、リズム感が大事となってきます。

【人と関わる】

★人と関わる力をソーシャルスキルといいます。挨拶ができる、「ありがとう」「ごめんなさい」が言える、わからないことを聞ける（伝えられる）、助けを求めることができることなどです。お友だちの名前がわからないときは、名前を言えなくても「ねえ」「ちょっといい?」「ねえいっしょにあそぼう」と声がけして関係を作っていけばいいと教えてあげましょう。困っているときは周囲に SOS を出すことも大事です。助けを求めることができる力は一生ものの大事な力になります。

★学校には日直、給食当番などの役割やいろいろなルールがあります。しかし、学校でのルールを本人がわかっていないかもしれません。保護者側でそうしたルールを確認する必要が出てくることもあるでしょう。ママ友を作りそこから情報を得ることもできますし、担任の先生ともよくコミュニケーションをとると確認もしやすいでしょう。

★簡単にできるゲームを家でやってみて、集団に参加する力がどのくらいあるか把握し、大人数に

なると難しいけれど〇人までならば参加できる、むずかしいゲームはだめでも〇〇ならできるといようにその子の特徴を学校側に伝えましょう。

【学校での配慮と支援】

- ★配慮は、通常学級の中で工夫をしてもらうことです。例えば「座席の配慮」「雑音への配慮」（音に敏感な子は多いです）「先生の話し方」「黒板の使い方」などに担任の先生に相談して配慮してもらったら、「わかる」「できる」が増えたということも聞きます。「ユニバーサルデザイン」もこれに該当します。
- ★支援は、個別の指導計画に従い、特別支援学級で学び、その子どもに必要な個別の対応をしてもらうことです。通常学級の教室内でできることもあります。周囲の目や雑音環境も考えると別室で学ぶほうがその子どものためによい場合もあります。
- ★保健室の先生や特別支援教育コーディネーターという役割の先生に相談をすることもできます。子どもの様子を見ていろいろなところに相談を求めましょう。

